

シルクロード地域の歴史写真をデジタルアーカイブ化で後世に残す。

トルコ、ペルシア、コーカサス… 名前は知っているがなじみが少ない中央アジア、西アジア地域。そうした地域の歴史を伝えてくれる貴重な写真と動画が、1人の研究者の元にある。そのまま放置すれば、やがては散逸し失われる運命だ。それを防ぐため膨大な数の写真のデジタルアーカイブ化事業が始まった。

過去50年間の調査で撮りためた

25,000点の写真を守る。

国立民族学博物館 名誉教授の杉村 棟さんは、1989年から参加したユネスコのシルクロード学術調査や単独調査を通じて、西アジア、中央アジア、東アジア各地域で写真を撮影した。遺跡などの建造物や、人々の生活を被写体とした写真の数は約25,000点に及ぶ。それまでに地域紛争などによって破壊された遺跡や、生活の近代化によって失われた衣装や伝統、生活様式などの記録も含まれている。



シルクロードデジタルアーカイブスのホームページ



東京ビッグサイトで開催された「JAPANTEX2009」に出展し、同センターの活動内容を紹介した

杉村さんは膨大な写真を示しながら「50年間に及ぶ調査研究の結果です。今なお紛争が続き、訪れることができないようなコーカサス地方の写真など、世界的に見ても数少ない貴重な写真がたくさん含まれているのですが、今のままでは退色が進み、後の研究に支障が出てきますので、なんとかして後世に残したかったのです」と説明してくれた。

そこで考えられたのがデジタルアーカイブ化事業だが、その予算を確保できないまま時間が過ぎていった。最後の頼みとして申し込んだAJOSCの助成事業に認められ、杉村さんが代表を務める東西美術交流研究センターが主体となり、2009年4月に事業はスタートする。

写真資料は、地域ごとにいくつかのカテゴリーに分けられている。シルクロード総合調査時の写真が約12,000点と最も多く、ロシア、コーカサス、中央アジア、イラン、イラクなどの遺跡、建築物が撮影されている。そのほか、主なものとしてトルコトプカブ宮殿にある東西交流を示す絵画の写真約1,000点や、世界遺産エマーム・モスク



アーカイブ化されたデジタル写真(一部)



ベゼクリク千仏洞の写真
貴重な仏教石窟が残されている



アラマン・ホイカ(羊を奪い合う競技)
に興ずる男達



踊りを舞うトルクメンの娘

民族衣装を着たバルバル村の女性



などペルシアの古都エスファハーンの写真資料約250点、トルコの遊牧民の暮らし約270点などがある。

今回は全ての写真をデジタル化できたわけではなく、貴重性や緊急性を考慮して代表的なものを先行して扱うことにした。このデジタルデータは2010年3月より同センターのホームページを通じて、研究者に無料で提供されている。

ロシア化されて消えた民族衣装と踊りがデジタル化で蘇る。

学術的な意味合いもさることながら、写真はどれも美しいものばかりである。シルクロードを旅すると、あちらこちらに中国の陶磁器の破片が転がっていて、海のシルクロード上にある紅海の周辺域からも出土する。こうした写真を見ていると古くからの東西交流の様子が浮かんでくるようだ。

また資料の中には、旧ソ連領内の国々の古い動画映像もある。当時、これらの地域には日本のマスコミも入りにくかった。杉村さんはユネスコのお墨付きがあったので入れたのだ。

映像の中には民族衣装を着たさまざまな人々が踊っ

担当者より



失われた文化を写真や映像だけでも残せたことに感謝します。

国立民族学博物館 名誉教授
東西美術交流研究センター 代表
杉村 棟さん

今回の助成なくしてはできない事業でした。この不況の時代、もっとも後回しになりがちな学術・文化に目を向けていただいて感謝申し上げます。私たちのような事業も時間との戦いという面が多いのです。今後も広い視野に立った活動を続けられることを願っております。

ているものがある。旧ソ連時代にロシア化が進んだため、今ではその地域の遊牧の伝統が消滅しつつある。

杉村さんはこの事業の意義についてこのように語る。「資料を集めるだけならそれほど難しくないので、それを運用できるようなカタチにもっていくのが難しいのです。当初、大学などに提供してアーカイブ化を依頼したのですが、大学も今は予算がつかまないので途中で断念しました。今回の事業でともかくも第一歩を踏み出すことができ良かったと思います」

同センターの次の課題は、写真全てのアーカイブ化と検索システムの構築である。利用者がより簡単に情報を入力し、往時の文化を再現できるようにするのだ。さらに、杉村さんが所有している膨大な書籍もある。

「中央アジアや西アジアは古代から高度の文明が発達し、日本とは東西の交易路であるシルクロードで結ばれた地域でもあり、今後はもっと交流を深めるべきですし、深まると思っています。そのときにこうした書籍や写真が有効になります。散逸しないよう、私の目の黒いうちにめどをつけたいのです」と杉村さんは笑いながら語ってくれたが、すでに整理には着手されているようだ。

このデジタルデータは研究以外の目的でも利用できる(商用利用は有料)。データを眺めるだけでも楽しいので、興味のある方はご覧になることをお勧めする。